

環境プログラム無償資金協力
「太陽光を利用したクリーン・エネルギー計画」起工式

1 2015年7月13日(月)、ガラパゴス諸島バルトラ島(バルトラ空港近く)において、環境プログラム無償資金協力「太陽光を利用したクリーン・エネルギー計画」(供与限度額:860,000,000円)の起工式がエクアドル電力・再生エネルギー省主催で開催されました。同式典には、小瀧駐エクアドル特命全権大使、クルス・ガラパゴス特別協議会議長、ダビラ電力・再生エネルギー省次官、ブチェリ・サンタ・クルス市長、サラオ・ガラパゴス電力公社(ELECGALAPAGOS)総裁、ノボア・エネルギー効率化・再生エネルギー研究所(INER)所長が出席しました。

2 本プロジェクトは、2015年2月に打ち出された日本政府の開発協力大綱(http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/press4_001766.html)の新たな指針に沿ったものであり、エクアドルの国家開発計画「良き生活」11番目の目標でもある「再生可能エネルギーの利用」にも合致するものです。

3 本プロジェクトは、50kWpの太陽光パネル設置のみならず、日本の最新技術を導入した産業バッテリーにより既存の風力発電による電力効率を最大限に高めることを目的としています。

4 日本政府は、ガラパゴス諸島の生態系保護に係るエクアドル政府のイニシアティブを高く評価しており、同方針の下で推進されている「ガラパゴス化石燃料ゼロ計画」の一環として本プロジェクトが速やかに確実な形で実施され、政府の目標達成に貢献することが期待されます。



小瀧大使挨拶



左から、サラオ ELEGALAPAGOS 総裁、ブチェリ・サントクルス市長、小瀧大使、ダビ
ラ電力・再生エネルギー省次官、クルス・ガラパゴス特別協議会議長、ノボア INER 所長